

## 第18回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜ ターゲット型 外国にルーツのある児童の保護者及び日本語教育に関わる皆さまと ＞  
～子ども向け日本語ボランティア～  
対話録概要

と き	令和7年9月26日（金） 午前10時から午前11時30分まで
と ころ	中央北生涯学習プラザ 1階学習室 A・B・C
出 席 者	参加者 13人、市長ほか関係者 17人 計30人
トークテーマ	① 外国にルーツを持つ子どもへの日本語教育における現状や課題について ② 目指すべき方向性について

※ 参加を予定していた「外国にルーツのある児童の保護者」については、当日欠席となったため、「日本語教育に関わる皆さま」と対話を行いました。

### 【市長のあいさつ】

車座集会も第18回を迎え、これまで、公募により集まった市民等と議論をするフリートーク型や、特定の政策分野でテーマを掲げて議論をするターゲット型など、いろいろなパターンで開催してきた。市の事業などに関わる人々の声を直に聞くことで、自分自身の市の政策判断に際しての充実度が変わってくると考えている。車座集会を通じて、意見交換し、これからすべきことに対して共通認識を持てればと思っているので、本日はよろしくお願ひしたい。

外国籍住民の増加を背景に、日本語を教えるボランティアの方々を中心に集まってくれており、子どもも含めた外国籍住民が生活する上でどのようなサポートを進めていくと良いかという視点でも話をしていきたい。

### 【意見交換】

#### テーマ① 外国にルーツを持つ子どもへの日本語教育における現状や課題について

＜参加者＞日本語教室をしている。子どもたちに市販の教材で教えているが、実際に学校生活で役立っているのか分からない。子ども・保護者に聞いても役立っているか否かが掴めず、子どもが学校でどのような様子なのかも分からない。学校と十分に連携が取れていない。

＜参加者＞日本語教室に来る方は多国籍のため、日本語を共通語として話をしている。また、教室に来ることが日本語教育を超えた地域活動につながると考えている。

＜市長＞外国人児童生徒への日本語教育がコミュニケーションレベルが良いのか、授業についていけるレベルが良いのかという違いがあると思う。学校との連携は重要であるが、教材の問題や学校との連携の問題が出てくると日本語教室の担い手がいなくなったり、ボランティアでは対応できないという話が出たりする。ボランティアでやれる部分と、しんどい部分が出てくるのではないかな。この点を整理しなければ、施策の充実にはつながらないのではと考える。

＜参加者＞母親が妊娠中であつたり、小さい子どもと一緒にあつたりすると、日本語教室に来ることが難しい。母親は子どもを幼稚園等に預けて働きに出るため、母親の日本語学習機会がない。そこで、オ

ンラインでの日本語教室を開始したことで、母親が勉強する時間を確保できたが、一方で幼稚園等に  
通う子どもも日本語を学んでいるかどうかは分からない。

〈参加者〉本市は外国人児童生徒が増加しており、今後も増加が見込まれる。実際のところ、日本語は話  
せるが、文字が書けないという子どももあり、その背景としては、家庭で日本語の文字に接する機会  
がないことにある。また、外国人のために書かれた絵本が少なく、本を見始める時期が遅い場合もあ  
る。尼崎市においては、まず小学生を対象として事業を始めており、未就学児への言語支援などはな  
されておらず今後の課題と感じている。

〈参加者〉子どもは日本語のみを話し、親は母語のみを話す場合、親子のコミュニケーションがどうなっ  
ていくのかという点で問題も出てくる。

〈参加者〉中学生の場合は高校受験が控えている。中学校の先生から受験のシステムについて説明されて  
いると思うが親にきちんと伝わっているのかが不安である。市は受験期にある外国人生徒に対  
して、どれくらいサポートをしているのか教えてほしい。また子どもは成長するにつれて、勉強だけ  
でなく、他のいろいろなところで悩みを持つようになる。

〈参加者〉外国人生徒に対する高校入試体制へのサポートが市の取り組みであればと感じる。兵庫県内  
では6校が外国人生徒を対象にした入試制度をしているがそういった制度を導入している高等学校はま  
だまだ少なく狭き門である。

〈市長〉基本的には、個々の先生方や個々の学校では、いろいろと考え、対応しており、十分なところと  
不十分なところがあると考え。それを市としてサポートできているかという点で課題がある。中学  
校へ通訳機器を導入するなど、学習環境をサポートする事業に取り組んでいるが、一層ずつ積み重ね  
て改善していくしかない状態である。受験・進学となると、子どもたちが授業についていけている  
かという教育内容の問題も出てくる。

## テーマ② 目指すべき方向性について

〈参加者〉コミュニケーションに関する日本語は、学校の中に入れば身に付いていくが、学習面での日本  
語は全く別物である。学習面のサポートをしてあげたいが、手探りの状態である。昨今はYouTubeなど  
で授業の問題の解き方などを観られるため、動画があることを親へ伝えたり、動画を視聴する場を提  
供できたりするような工夫も必要だと思う。

〈参加者〉教育の世界では、学力は語彙数に比例すると言われていたため、日本人、外国人にかかわら  
ず、子どもたちの語彙力をどれだけ高められるかが大事となってくると考えている。

〈参加者〉ボランティアは学校の先生ではないため、子どもたちが学校の授業に必要な日本語を教えられ  
ているのか分からないのが現状である。

〈参加者〉子どもたちは学校で授業内容が分からなくても、ひたすら机に向かっており、耐えている状況  
とも言える。週末に地域の日本語教室に来た際、学びに対する意欲をどうやって維持させ、向上させ  
るのか考えていかなければならない。子どもたちのやる気や学びに対する意欲をなくさないようにサ  
ポートする形が良いと考えている。遊びや日常的な活動を通じて学習を行い、子どもたちの居場所と  
なるよう心掛けている。

〈参加者〉放課後日本語ボランティアとして小学校へ行っているが、放課後のため時間厳守で教えてお  
り、1年間の派遣回数も限られている。子どもが授業についていけるようになって来た頃に派遣終了

を迎えることもあり、子どもによって派遣回数を増減させるなど柔軟に対応すべきと考える。

〈市長〉参加者の皆さんは、小中学校での通訳者、放課後日本語ボランティア、地域の日本語教室と様々な立場に置かれている。言語に留まらず、学習面として授業についていけるかという面もあり、市として、外国人児童生徒への言語や学習支援に関してどこを目標としていくかを意見や課題を聞きながら考えていく必要があると感じている。

〈参加者〉現在、放課後日本語ボランティアに来ている外国人の小学3年生の子は親が共働きで児童ホームにも通っているが、その子と仲の良い同じ国籍の小学6年生の子は通っていない。児童ホームのように子ども同士が放課後にも関わる場所がなければ、遊ぶ友達もできず、居場所がない状況となる。学校に同じ国籍の子どもがいない場合はより孤独であると考えられるため、このような子どもへの支援も必要であると感じる。

〈市長〉より一層きめ細やかな支援が必要かもしれない。外国人の子どもたち全員が日本語教室などに来る訳ではなく、条件や親の希望などが合わさって日本語教室へ来ているため、学校で孤独になっている子どももいるということである。

〈参加者〉学校を通じて、親に日本語教室を紹介してもらうなど、取り組んでいるところもある。

〈参加者〉尼崎市の夜間中学については、外国人への支援が充実していると思うが、夜間中学校の役割をどう捉えているのか。

〈市長〉外国籍住民の中には昼間は働いている方も多くおり、そういったケースであっても学習できる夜間中学校は重要な役割を担っていると考えている。当該学校においても外国籍の割合が増えている実態にあり、中学生以上が多く通っている。

〈参加者〉教育委員会が今年度学校園における日本語教育の方針である「尼崎市多文化共生教育ガイドライン」を出すと聞いているため、教育委員会の中だけで決めるのではなく、子どもたちの実際の生活を見ている私達の知見を反映できるようなことを考えてほしい。

## 【おわりに】

今日の話を通じて、やるべきことが多く、優先順位を整理する必要があることが明らかになった。単純に予算や人員を増やすだけでは解決できない問題であることも理解したため、政策にいかしていきたい。また、ダイバーシティ推進課や地域課、教育委員会事務局など、庁内でしっかりと連携しながら取り組みを進めていきたいと考える。ありがとうございました。

以 上